

# HOPE<sup>plus</sup>

【市立芦屋病院だより】



## 11月14日は世界糖尿病デー

糖尿病・内分泌内科 部長 こん や ひろ ゆき  
紺屋 浩之

世界糖尿病デー(11月14日)は世界保健機構(WHO)が定めた国際デーです。今から100年前の1921年にインスリンを発見し、1923年にノーベル賞を受賞したフレデリック・バンティング博士の誕生日に当たります。世界160カ国以上の200を超える糖尿病関連団体(医療スタッフや患者さんの団体)である国際糖尿病連合(IDF)とWHOが1991年に制定し、2006年12月の国連総会で公認されました。世界各地でブルーライトアップを灯す行事が行われ、世界糖尿病デー前後には糖尿病に関するイベントやシンポジウムなどが開催されます。兵庫県でもポートタワーや姫路城がブルーに染まったり、当院の電飾も青くなったりしています。



1992年当時、20歳以上のうち糖尿病が強く疑われる人は690万人、可能性を否定できない人は680万人で、糖尿病リスク者は1370万人と今より患者さんが少なく、糖尿病を広く世間に知ってもらう必要がありましたが、2019年で糖尿病が強く疑われる人は1196万人、可能性を否定できない人は1055万人と糖尿病リスク者は2251万人になっており、糖尿病は多くの患者さんが治療している一般的な病気となりました。

インスリンの発見から100年ですが、その後も多種に及ぶ薬剤が開発、発売されており治療法の進歩は顕著です。インスリン注射だけでなくインスリンポンプ(持続皮下注射)、週1回の内服薬、注射薬、食欲を抑える薬剤、体重を減らす薬剤、低血糖発作治療の点鼻薬まで使用できます。

昨年春より血糖自己測定については、インスリン注射治療(複数回の注射)の患者さんに保険適応が限定されますが、上腕に500円硬貨大のセンサーを14日間装着して、血糖測定を15分ごとに調べることも可能となり、検査も容易になっています。

新型コロナウイルスなどで皆様大変ですが、糖尿病治療がより便利で容易にできるようになっております。当院の医療スタッフと一緒に治療継続を頑張りましょう。



当院ブルーライトアップ

## 新任Drのご紹介



整形外科  
リハビリテーション科部長  
じょうやま すすむ  
**城山 晋**

### 先生から一言

これまで主に骨折・外傷と骨軟部腫瘍の手術治療および、リハビリテーションに携わってきました。老若を問わず人が活動する限り、不測の怪我や運動器の障害はついて回ります。外傷・運動器の治療は、予防・発生前から救急の受け入れ・回復過程までを含めて、地域全体のセーフティーネットです。皆さんが安心して暮らせる地域を作れるよう尽力したいと考えております。よろしくお願いたします。



整形外科  
医長  
いしかわ なおき  
**石川 直輝**

### 先生から一言

10月より芦屋病院に赴任することになりました、石川直輝です。今までは、大阪の病院を中心に骨折など、一般整形の診療を行ってきました。これまでの経験を元に、皆様の健康な生活の手助けが出来るように尽力していきたいと思っております。

## 大腸癌について

外科 医師 さそう かずひろ 笹生 和宏



(左) 笹生医師 (右) 田守医師

皆様、こんにちは。大腸疾患の手術を担当しております笹生和宏です。

大腸癌は、日本人が最も罹りやすい癌と報告されています(罹患率第1位)。生涯罹患率が8~10%、つまり約10人に1人が大腸癌にかかっています。

また、大腸癌による死亡数は肺癌に次ぐ第2位であり、多くの方が大腸癌で命を落としているのが現状です。しかし、恐れることはありません。大腸癌は発見が早ければ治すことができる病気です。

早期に発見された大腸癌(Stage I)においては、手術治療をすれば95%以上再発なく過ごすことができ、Stage IIIのような進行した大腸癌であれば、7割弱の患者さんが再発なく過ごすことができます。つまり、癌が大きく広がってしまう前に癌を見つけることが重要です。海外では「50歳以上の方は一度大腸内視鏡検査を受けるべき」という方針になりつつあります。

当院では大腸癌を見つけるための検診や、大腸カメラ(内視鏡)が可能です。

また、大腸癌が発見された場合にも患者さんのリスクと、痛みが少ない内視鏡治療や腹腔鏡手術も積極的に行っています。

少しでも不安があれば、かかりつけ医にご相談するか、当院をご受診ください。

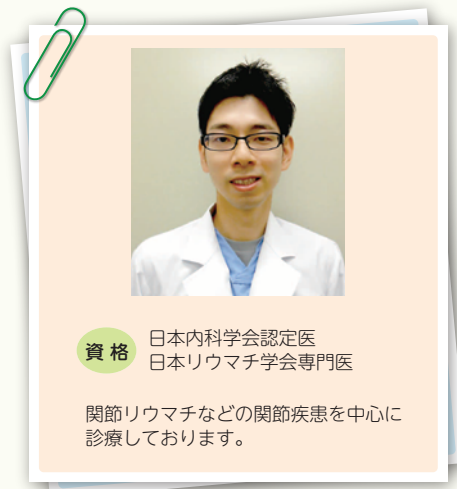
## リウマチ内科の紹介

リウマチ内科 医師 あべ たけお 安部 武生

当科は本年度より新設され、毎週金曜日の午前に外来診療を行っております。

リウマチ内科では、関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、脊椎関節炎、結晶誘発性関節炎(痛風、偽痛風など)といった関節炎を呈するいわゆるリウマチ性疾患を中心に診療を行います。これらの疾患の特徴としては、朝、手足に強いこわばりがあり、手足の関節に腫れや発赤、痛みが生じることが多いとされます。そのような患者さんに、お体の診察、血液検査、レントゲンや関節超音波検査を通して、関節炎の状態を評価・診断し、必要に応じて関節注射を行い、抗リウマチ薬の処方などを行っております。

また、その他にもシェーグレン症候群、全身性エリテマトーデスといった膠原病の診療も行っております。必要に応じて、近隣の大学病院や診療所とも連携を行いながら、地域のリウマチ診療に貢献してまいります。



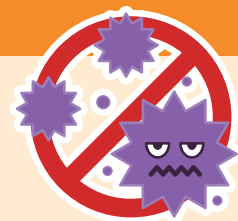
資格 日本内科学会認定医  
日本リウマチ学会専門医

関節リウマチなどの関節疾患を中心に診療しております。

## あしやホスピタルフェスタ2021 中止のご案内について

今年度も開催を予定しておりました「あしやホスピタルフェスタ2021」については、新型コロナウイルス感染防止のため、開催を中止します。

ご来場をたのしみにして下さっていた皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしますがご理解のほど何卒よろしくお願いいたします。



## 各種行事のお知らせ

マチネーコンサート・両親学級・公開講座・糖尿病教室

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、イベントの開催を中止させていただきます。今後のイベント開催の可否については当院のホームページをご覧ください。

## 病院機能評価を受審しました！

当院は8月10日、11日の2日間「病院機能評価(3rd.G:Ver2.0)」を受審しました。「病院機能評価」は、日本医療機能評価機構が第三者の立場で病院組織全体の運営管理、提供される医療について評価を行うもので、質の高い医療を提供するための効果的な取り組みとして、多くの医療機関が受審しています。当院は第2世代Ver.6.0の認定を平成22年8月に受けており、認定更新のため今回の受審となりました。

当院は受審にあたり、院内に「病院機能評価プロジェクトチーム」を立ち上げ、現状把握から各種規程の見直しやマニュアルの点検、整備など様々な改善活動を行いました。

受審当日は各専門領域「診療管理、看護管理、事務管理、副機能(緩和)管理」を有する評価調査者(サーベイヤー)4名が中立性、公平性を保持しながら審査を行います。各部門の責任者への面接調査や病棟へのラウンドの実施、療養環境の確認やナースステーション内の管理体制の点検、患者さんの診療録を確認しながら一連の医療サービスについて確認するケアプロセス調査、各部署訪問など89項目にわたる評価項目について様々な方法により評価が行われました。最終日にはサーベイヤーからの講評もあり、改善に向けた意見交換なども行われ「病院機能評価」の受審は終了しました。しかし、取り組みはまだまだ続きます。講評で指摘された事項の改善に向け各部署が取り組んでいます。



## 当院ホームページから連携医療機関のホームページにアクセスできるようになりました！！

当院では、地域の医療機関の先生方と当院の連携強化を目的に、患者さんが地域で安心して継続した医療を受けることができるよう、独自の「連携医療機関制度」を運用しています。

このたび、当院ホームページから連携医療機関のホームページにアクセスできるようになりました。「かかりつけ医」をお探しの場合に、ご活用ください。



### 【連携医療機関URLホームページ】

<http://www.ashiya-hosp.com/gairai/iryoukikan.html>

QRコードはこちらです▶



# 事業管理者のつぶやき

さ じ ふ み た か  
市立芦屋病院 事業管理者 佐治 文隆

## ウィドウ

ウィドウ(widow)は夫を亡くした妻を言い、未亡人、寡婦、後家などと訳されています。未亡人は文字通り「未だ死なない人」であり、古代中国における「夫に殉じて妻は夫と共に死ぬべきなのにいまだ死なない人」が語源とされます。フェミニズムの視点からするととんでもない言葉で、現代の感覚では鬱鬱モノです。その点、寡婦(かふ)は配偶者と死別または離別して再婚していない女性を指し、男性の場合は寡夫(かふ)と同じ読み仮名でも漢字を変えているので、男女平等といえます。後家もまた「家」制度のもとで夫亡きあと家長の後見人的な意味で命名されたようで、本来は一对の品物の一方が失くなった時の残りを指しますが、寡婦と同義語に使われています。もっとも適齢期を過ぎて結婚しない女性を「行かず後家」と呼ぶのはアウトでしょう。ちなみに英語ではウィドウの反対語の寡夫はウィドウア(widower)と区別しています。

近年わが国で名が知られるようになった外来種の有毒クモ、セアカゴケグモはゴケグモ属に分類されます。ゴケグモ類の由来は英名「widow spider」そのままの和訳で、交尾後メスがオスを共食いすることから名付けられています。ゴケグモ類でもっとも知られているのはクロゴケグモ(black widow spider)です。「ブラック・ウィドウ(Black Widow)」というと、最近ではコミック作品のキャラクターでアベンジャーズの一員、マーベル映画のヒット作を指すようですが、私などはアイザック・アシモフの短編推理小説「the Black Widowers(黒後家蜘蛛の会)」をつい思い浮かべます。少年時代の愛読雑誌「EQMM(エラリー・クイーンズ・ミステリ・マガジン)」に断続的に掲載されたシリーズで、ニューヨークのレストランで毎月開催される少人数の推理オタクの会で、毎回謎解きに挑戦する趣向です。どのような難事件も最後には黙って聞いていた給仕のヘンリーが真相を解き明かすという、いわゆる安楽椅子探偵(Armchair Detective)モノです。アガサ・クリスティのミス・マーブル、都築道夫の「退職刑事」滝沢などと同類です。

寡婦、未亡人というどうしても暗いイメージがつきまといまいます。コーネル・ウールリッチ(ウィリアム・アイリッ

シュ)のミステリ・サスペンス「黒衣の花嫁」は、結婚直前の婚約者を殺害され寡婦同然の立場となった女性の復讐譚を描いています。フランスでフランソワ・トリュフォー監督の手によって映画化された作品では、主人公ジャンヌ・モローが事件の5年後に5人の犯人たちを突き止め、次々と追い詰め殺害していくストーリーでなかなかスリリングでした。

同じ寡婦でもこちらはめっぽう明るいラブ・ロマンス「メリー・ウィドウ(Merry Widow)」が、佐渡裕プロデュースの県立芸文センター恒例のオペラとして今夏上演されました。オペレッタ「メリー・ウィドウ」は桂文枝が狂言回しに登場しコメディタッチで展開します。東欧の小国ポンテヴェドロの大富豪未亡人ハンナの再婚話をめぐって、パリを舞台に繰り広げられる喜歌劇です。ハンナが外国人と結婚すると莫大な財産が国外に流出することになるため、パリ駐在の公使ミルコ・ツェータ男爵は、ハンナのかつての恋人ダニロ・ダニロヴィッチ伯爵と結びつけようと躍起になります。ここにフランス人の伊達男カミーユ・ド・ロションが絡み、この男が公使夫人ヴァランシェンヌに恋し口説いているので話がややこしくなります。

舞台の第一幕はパリにあるポンテヴェドロ王国公使館の国王誕生日記念夜会で、第二幕はやはりパリのハンナの豪邸の夜会、そして第三幕もハンナの屋敷で開かれた高級レストラン「マキシム」風に趣向を凝らした夜会で、いずれも華やかなパーティ会場ばかりです。第二幕の夜会ではポンテヴェドロ王国の民族衣装を付けて、コサック・ダンス風に歌い踊ります。第三幕は高級婦人が集うレストラン「マキシム」を模した設定だけに、フレンチカンカンをふんだんに見せるエロチックな趣向です。なお実在する「マキシム・ド・パリ」は100年以上の歴史を持つ由緒正しい高級レストランなので、期待して出かけてもフレンチカンカンを観ることはできません。

(2021.10.1)



事業管理者のつぶやきについてはホームページにも連載しておりますのでぜひご覧ください。

### 市立芦屋病院 ご案内



※ 病院ネットワークバスもご利用ください **無料**

### 交通案内

JR 芦屋駅、  
阪急芦屋川駅から

**タクシー**  
約7分

**バス**  
約25分  
JR芦屋駅、阪急芦屋川駅のりば2番

**徒歩**  
約30分

### 市立芦屋病院の理念

#### 病院理念

あい(愛)・しあわせ(幸福)・やさしさ(優しさ)

#### 基本理念

芦屋市の中核病院として 地域社会に貢献します  
患者の意思を尊重し 最善の医療と癒しを提供します



日本医療機能評価機構 認定施設(3rdG:Ver1.0 一般病院2)

## 市立芦屋病院

〒659-8502 芦屋市朝日ヶ丘町39-1

TEL:0797-31-2156 FAX:0797-22-8822

ホームページ <http://www.ashiya-hosp.com>